

発議第5号

令和2年9月29日

木津川市議会議長 山本 和延 様

提出者 木津川市議会議員 西山幸千子

賛成者 木津川市議会議員 山本しのぶ

コロナ禍のもと子どもたちの命を守るため、学びの環境整備
を求める意見書について

上記の議案を、地方自治法第99条及び木津川市議会会議規則第14条第
1項の規定により、別紙のとおり提出します。

コロナ禍のもと子どもたちの命を守るため、学びの環境整備を
求める意見書（案）

6月1日から全国の学校が3ヶ月ぶりに再開され、子どもも保護者も不安を抱えて再会を果たしたが、卒業式や終業式、また新しい学年のスタートの時期を含む3ヶ月もの長期休業は、子ども達に計り知れない影響を与えている。

長期にわたって授業がなかったことは、子どもの家庭環境などの違いによって、学習の進度に差が出たとされているが、文部科学省は、授業の遅れを2～3年かけて取り戻せばよい、心のケアを大切にするという方針を示している。今後も続く感染症への対応に加えて、子どもたちを受け止める手厚い教育が必要とされており、子どもの本音を受け止め、抱えている不安やストレスに共感しながら、心身のケアを進めていく手間と時間が必要である。そして、学習の遅れと格差に対しては、子ども一人一人に丁寧に教えることが欠かせないが、実際には7時間授業を取り入れたり、修学旅行や校外学習などの行事を削ったりしているのが実情である。

また、文部科学省は感染防止マニュアル「学校の新しい生活様式」を示しているが、児童・生徒が長時間過ごす公立小・中学校の普通教室の平均床面積は64㎡であり、生徒間の十分な距離1～2mを確保することは困難である。現在の「40人学級」では、感染症予防が大きな課題となっている。

本市でも、中学校で40人学級や39人学級が現に存在している。こうした実情を踏まえて、今後予想される感染症の再拡大時にあっても必要な教育活動を継続して、子どもたちの学びを保障するためには、少人数学級により児童・生徒間の十分な距離を保つことができるよう教員の確保が是非とも必要である。このことは全国知事会等をはじめ強く要請されているところでもある。

子どもたちの不安を取りのぞき、豊かな学校生活が送れるよう、国におかれては、少人数学級の実現とそれを可能とする教員の確保等、学校教育環境の整備を早急に図ることを強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和2年 月 日

木津川市議会議長 山本 和延

提出先：衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、文部科学大臣